

1 千葉港の概要

1 千葉港の概要

(1) 千葉港の概要

- 千葉港は、国際海上貨物輸送網の拠点となる国際拠点港湾に位置付けられている。
- 東京湾奥部に位置し、県内6市(市川市～袖ヶ浦市)にまたがる、海岸線延長約133kmを有する日本一広い港湾である。千葉港所在の6市には、約256万人(県人口の約42%)の人口を擁し、多くの人々の生活を支えている。
- 港湾取扱貨物量は、約1.54億トン(H29速報値)で全国第2位となる見込みである。
- 千葉港の港湾区域には、石油コンビナート、製鉄所、LNG基地などが集積し、県内及び首都圏の産業活動を支える重要な役割を担っている。
- 背後には高速道路や空港等の輸送インフラが整備されている。
- 自然環境も残されており、多様な生物を育む干潟や豊かな漁場を有している。

旅客船棧橋



コンテナターミナル



幕張新都心

人工海浜



ポートパーク



コンビナートが集積



三番瀬

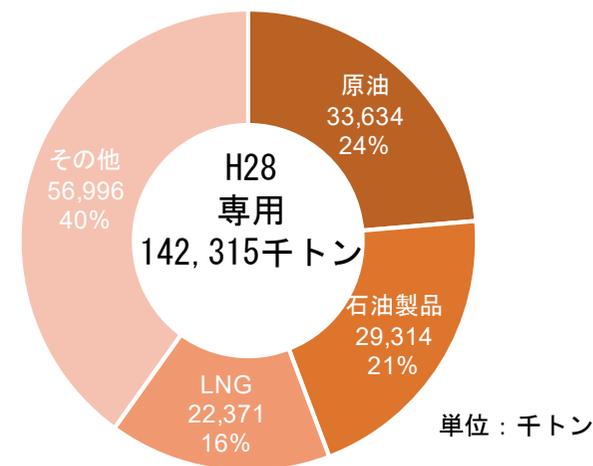
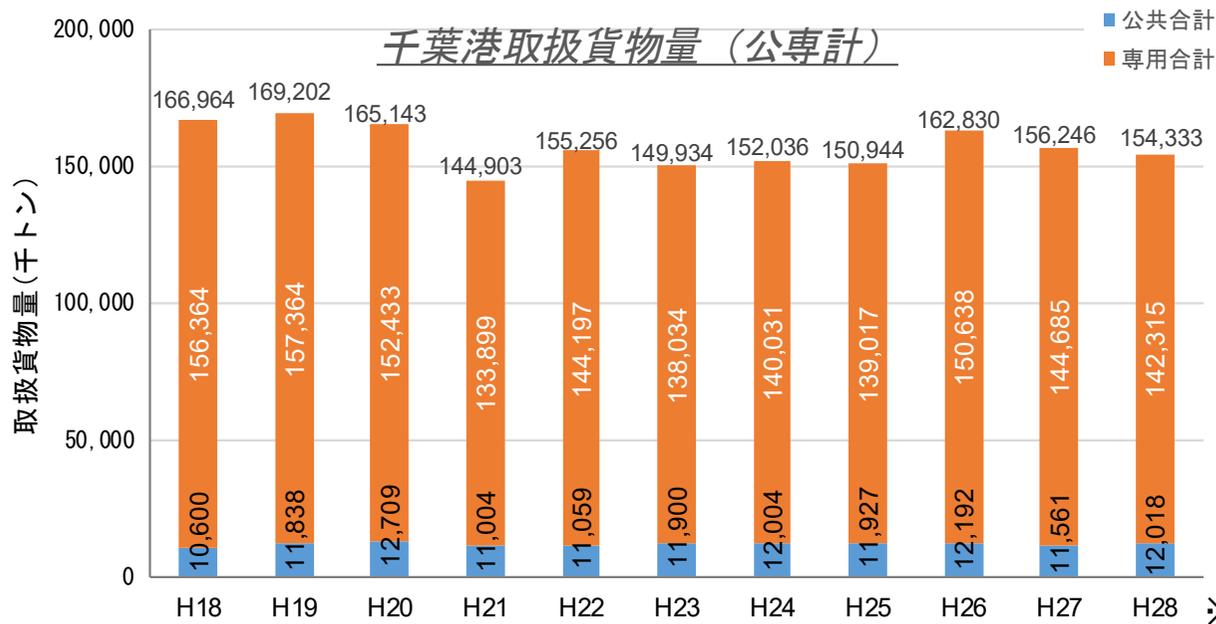


2017Google画像

1 千葉港の概要

(2) 取扱貨物量の推移（公専計）

- 千葉港の取扱貨物量は平成22年以降横ばいで推移している。
- 千葉港は専用貨物の取扱量が多く、全体の約93%を占めている。
- 特に輸入が多く、全国1位、総取扱量についても全国2位である。

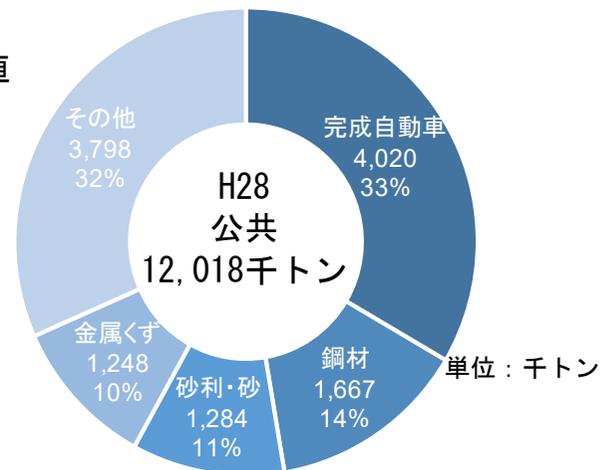


平成27年外内出入別貨物量の港湾ランキング

単位：千トン

輸出				輸入				移出				移入			
順位	港湾名	貨物量	全国シェア	順位	港湾名	貨物量	全国シェア	順位	港湾名	貨物量	全国シェア	順位	港湾名	貨物量	全国シェア
1	名古屋	55,236	18.8%	1	千葉	84,822	8.8%	1	苫小牧	43,559	5.6%	1	苫小牧	43,411	5.6%
2	横浜	31,591	10.8%	2	名古屋	75,758	7.9%	2	名古屋	35,228	4.5%	2	北九州	34,036	4.4%
3	神戸	23,297	7.9%	3	川崎	46,042	4.8%	3	北九州	31,993	4.1%	3	名古屋	31,758	4.1%
4	東京	12,933	4.4%	4	木更津	45,242	4.7%	4	千葉	31,146	4.0%	4	千葉	29,255	3.8%
5	千葉	11,022	3.8%	5	横浜	42,897	4.5%	5	喜入	26,037	3.3%	5	神戸	26,978	3.5%
6	川崎	10,753	3.7%	6	水島	42,421	4.4%	6	水島	20,629	2.6%	6	大阪	25,274	3.3%
7	水島	10,283	3.5%	7	四日市	37,479	3.9%	7	大阪	20,043	2.6%	7	堺泉北	25,178	3.2%
8	大阪	9,693	3.3%	8	鹿島	36,768	3.8%	8	神戸	18,839	2.4%	8	東京	24,729	3.2%
9	三河	9,297	3.2%	9	大分	35,816	3.7%	9	堺泉北	17,639	2.3%	9	横浜	23,945	3.1%
10	福山	8,604	2.9%	10	東京	33,766	3.5%	10	函館	17,386	2.2%	10	仙台塩釜	18,395	2.4%
全国計		293,602	100.0%			959,829	100.0%			780,255	100.0%			776,670	100.0%

資料：平成27年港湾統計年報（国土交通省）より作成

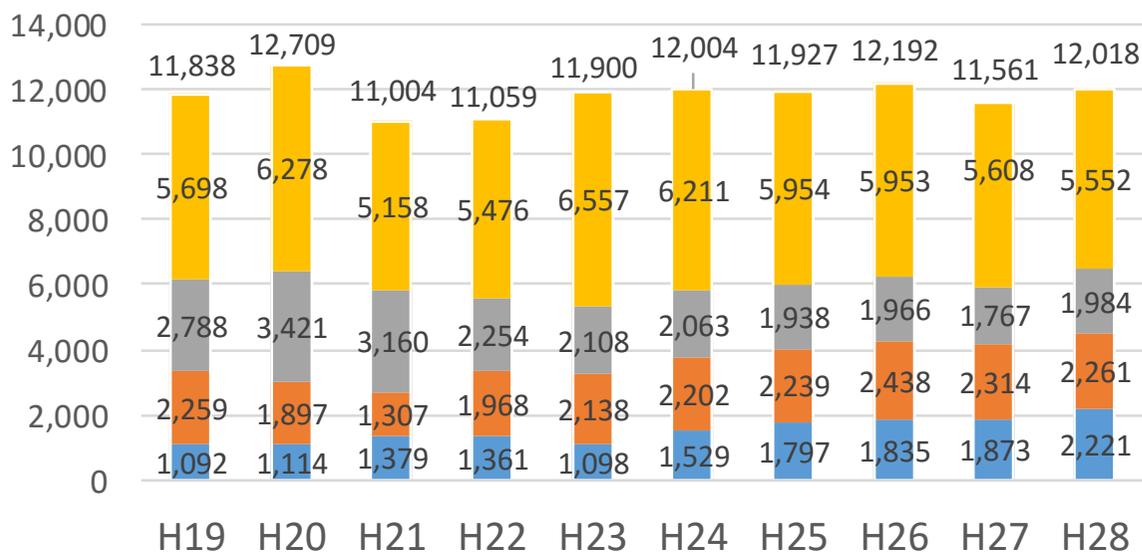


1 千葉港の概要

(3) 公共一般貨物取扱状況

- 千葉港の公共貨物は、世界同時不況の影響により平成21年に一度減少した後、平成23年には回復し、以後横ばいで推移している。
- 公共一般貨物の約半数が移入で占められており、その主要品目は完成自動車である。また、完成自動車は輸出・輸入・移出において主要品目となっている。

公共一般貨物取扱量 (千トン)

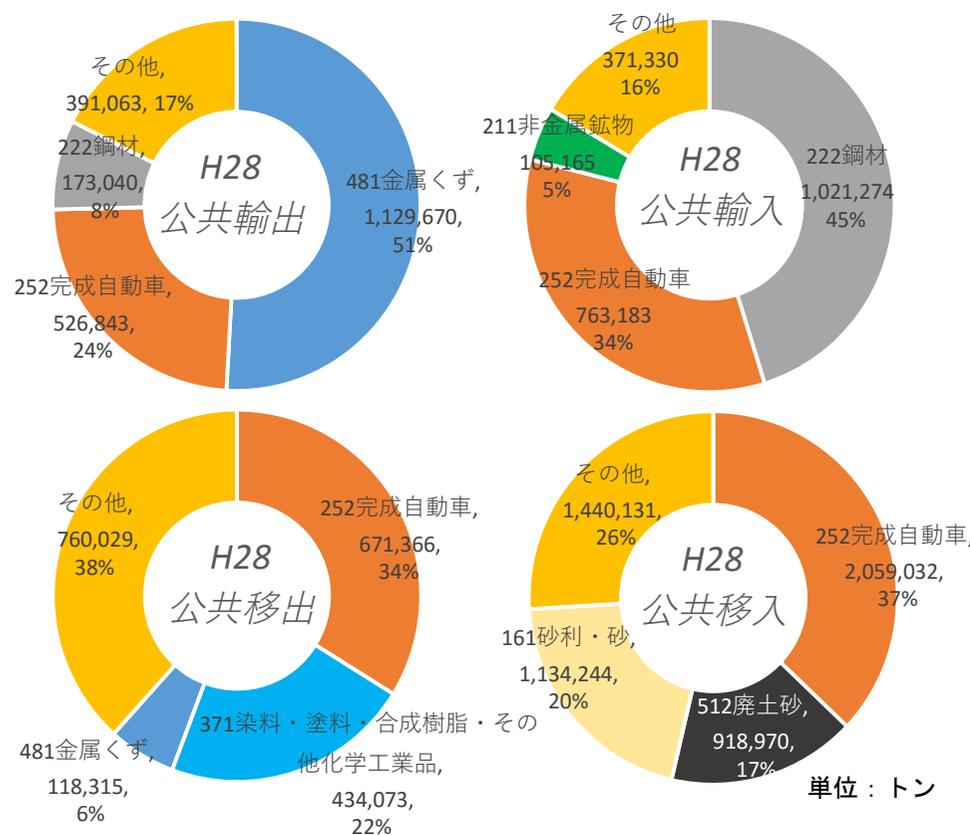


■ 輸出 ■ 輸入 ■ 移出 ■ 移入

※H28は速報値

リーマンショック

日本経済の悪化



単位：トン

1 千葉港の概要

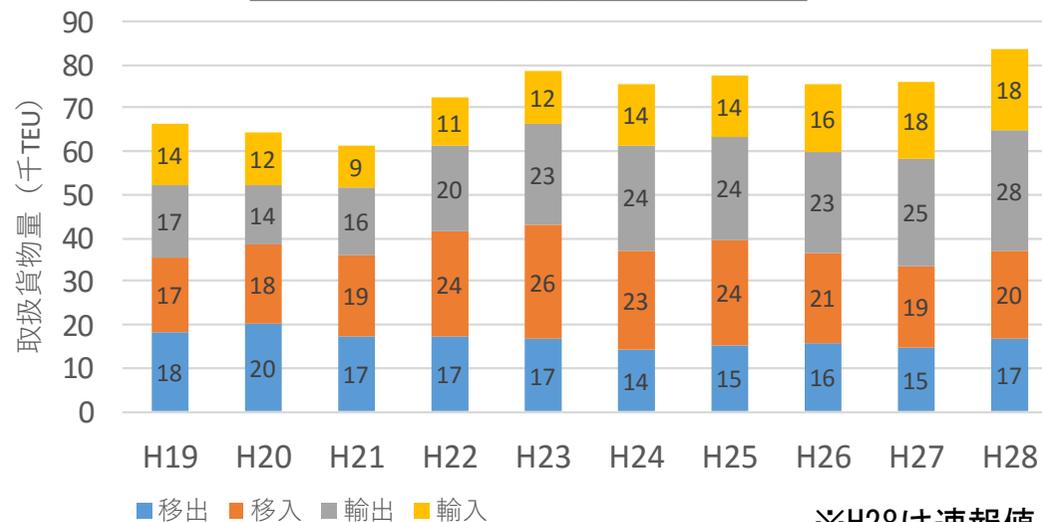
(4) 公共コンテナ取扱状況

- ・千葉港の外貿コンテナ航路は5航路7便、内貿コンテナ航路は2航路が就航している。
- ・平成28年の公共コンテナ貨物は、過去10年間で最高値を記録している。
- ・千葉港に寄港する外航コンテナ船は近年大型化が進展している。

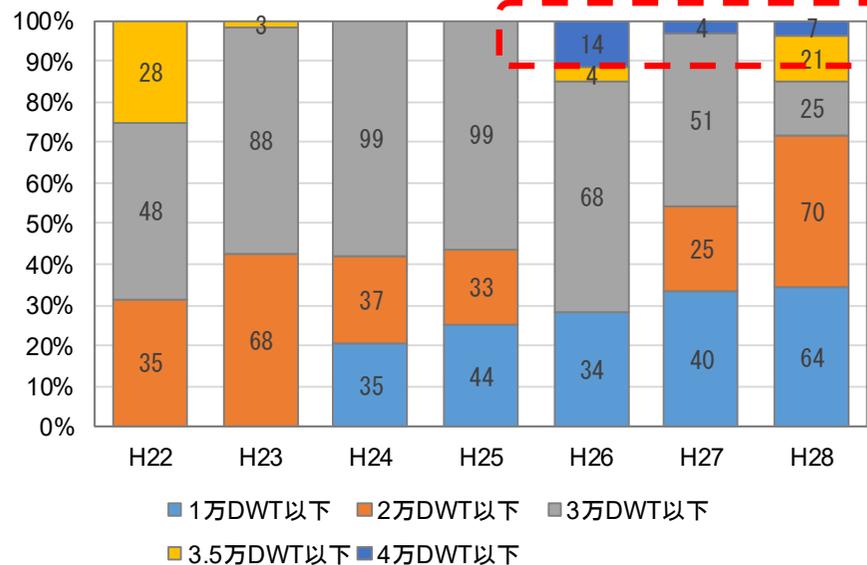
千葉港のコンテナ定期航路（外航、内航）

航路の種類	航路名	船社名	便数	寄港地
外航コンテナ航路	韓国航路	高麗海運	1便/週	横浜－東京－名古屋－蔚山－釜山－千葉
	韓国航路	天敬海運 太栄商船	1便/週	千葉－釜山－仁川－釜山－清水－東京－横浜－名古屋－千葉
	華南・台湾航路	陽明海運	1便/週	千葉－横浜－基隆－高雄－香港－蛇口－廈門－名古屋－東京－千葉
	東南アジア航路	ワンハイラインズ	1便/週	東京－横浜－千葉－名古屋－大阪－神戸－台北－香港－蛇口－ポートケラン－パシルグタン－シンガポール
	東南アジア航路	OOCL	3便/週	千葉－東京－横浜間のバージ輸送を経て、東南アジア航路に接続
内航コンテナ航路	千葉～徳山下松	東ソー物流	7便/月	千葉－徳山下松
	千葉～徳山	山九	1便/6日	船橋－千葉－川崎－岩国－徳山

公共コンテナ貨物量（千TEU）



4万DWT級のコンテナ船の寄港が増加



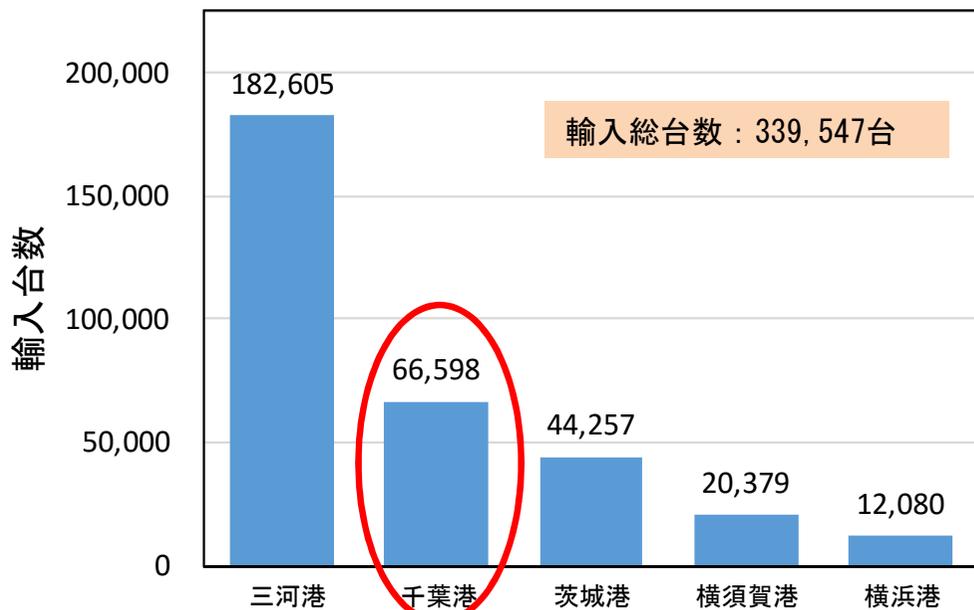
外航コンテナ船の入港隻数推移

1 千葉港の概要

(5) 完成自動車取扱状況

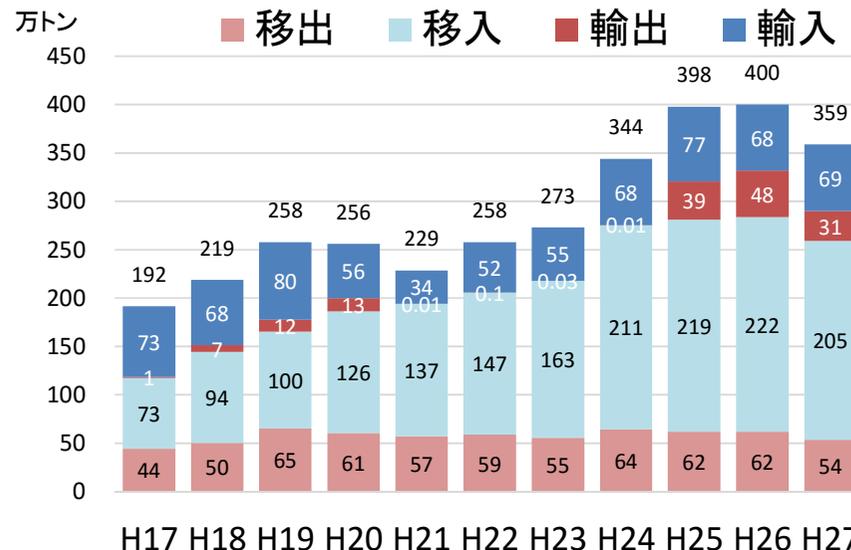
- ・完成自動車の公共取扱量は、直近10か年でみると、概ね増加傾向にあり、取扱貨物量が最大となっている。
- ・平成27年の完成自動車の輸入量は、全国2位となっている。
- ・千葉港の公共岸壁に寄港する大型の外航自動車専用船の隻数は増加している。

完成自動車輸入台数上位5港(平成27年)



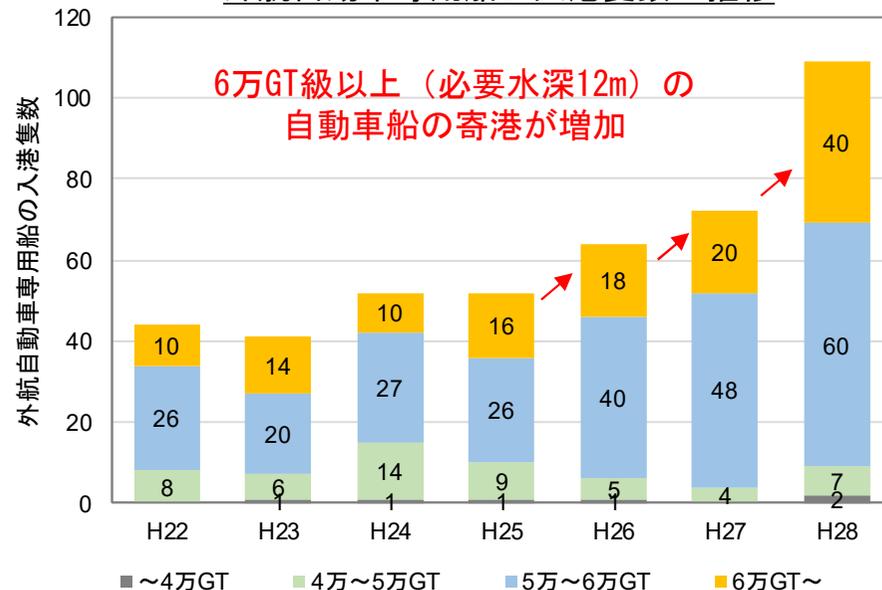
資料：財務省貿易統計（H27年データ）より作成

完成自動車(公共貨物)



資料：千葉港港湾統計年報より作成

外航自動車専用船の入港隻数の推移

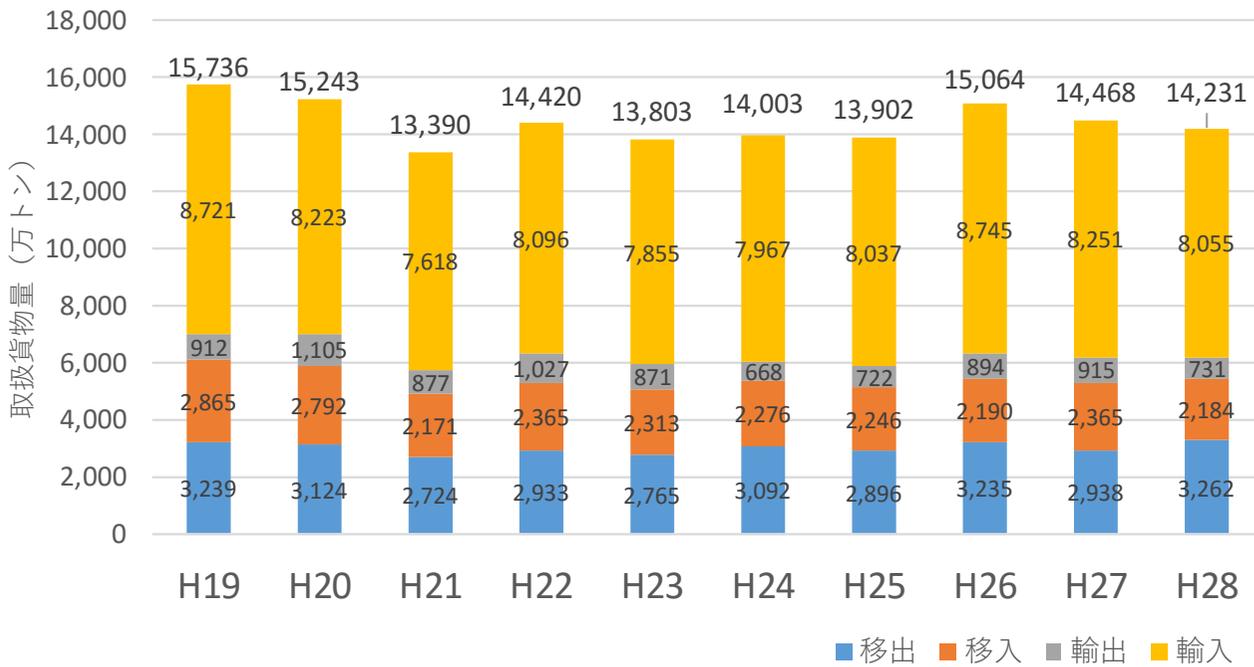


1 千葉港の概要

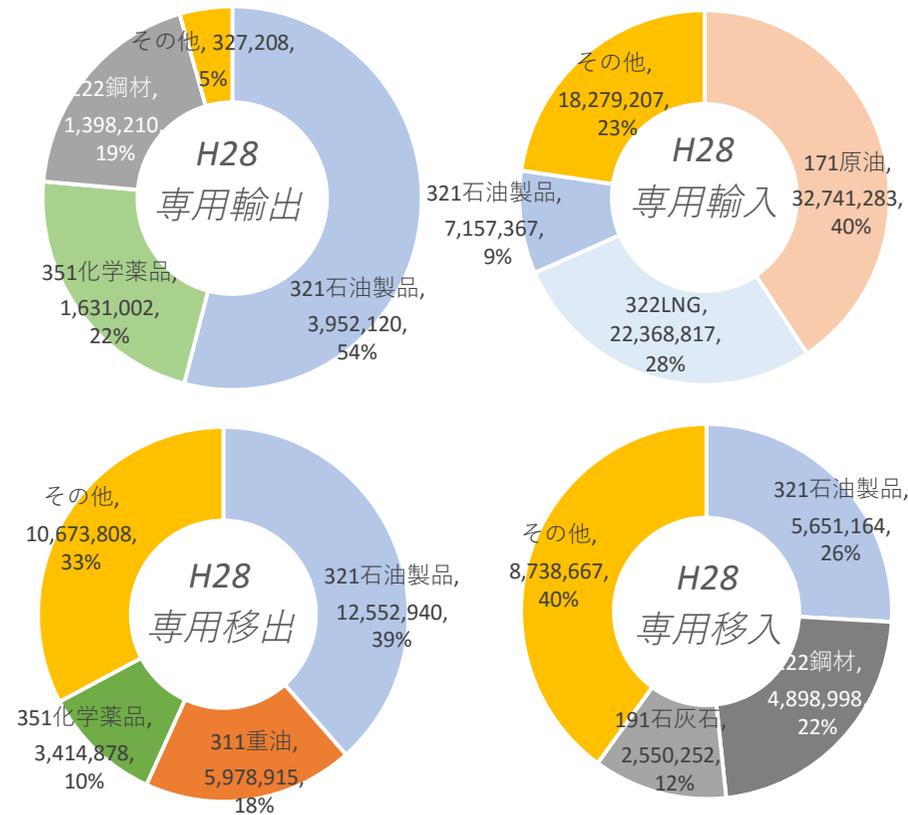
(6) 専用貨物取扱状況

- 千葉港の専用貨物は、平成22年以降概ね横ばいで推移している。
- 外内出入別では、輸入貨物(主に原油、LNG等のエネルギー物資)が全体の半数を占めている。

専用貨物取扱量 (万トン)



※H28は速報値



単位：トン

1 千葉港の概要

(7) 日本を支える素材型産業・エネルギー拠点

- 京葉臨海工業地帯は日本有数の素材型産業の集積地であり、その中枢拠点として千葉港は機能している。
- 東京電力の火力発電所が5箇所立地しており、関東圏及び東日本へのエネルギー供給を担っている。

石油化学産業の立地状況

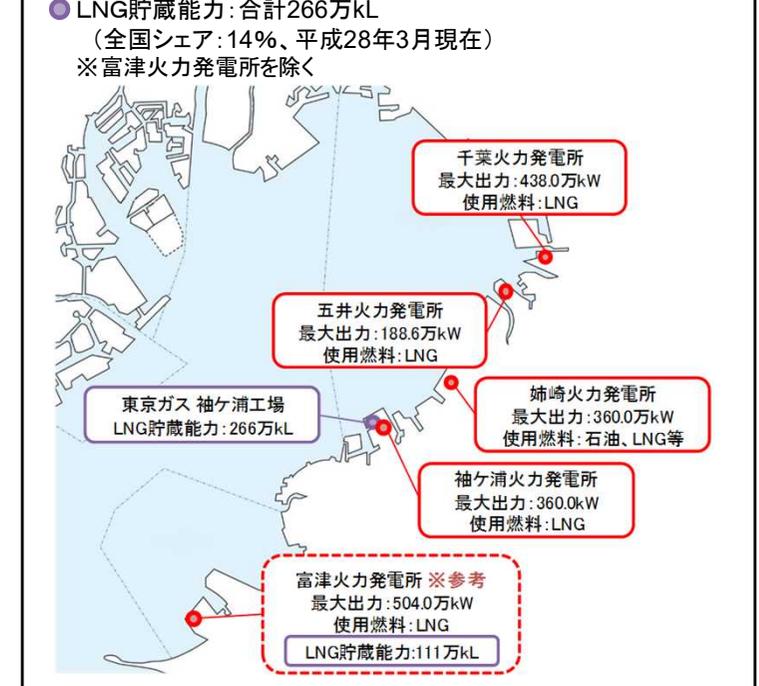
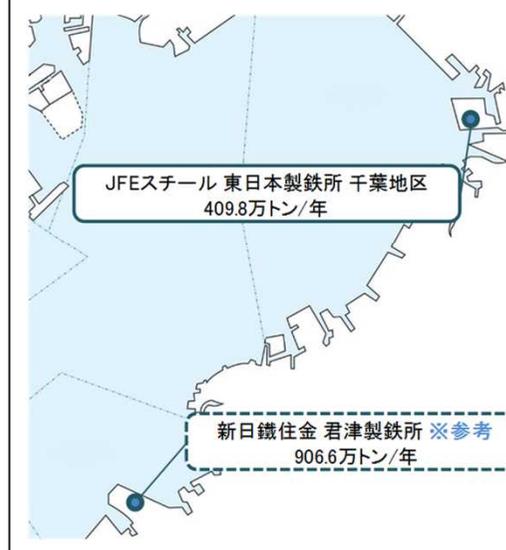
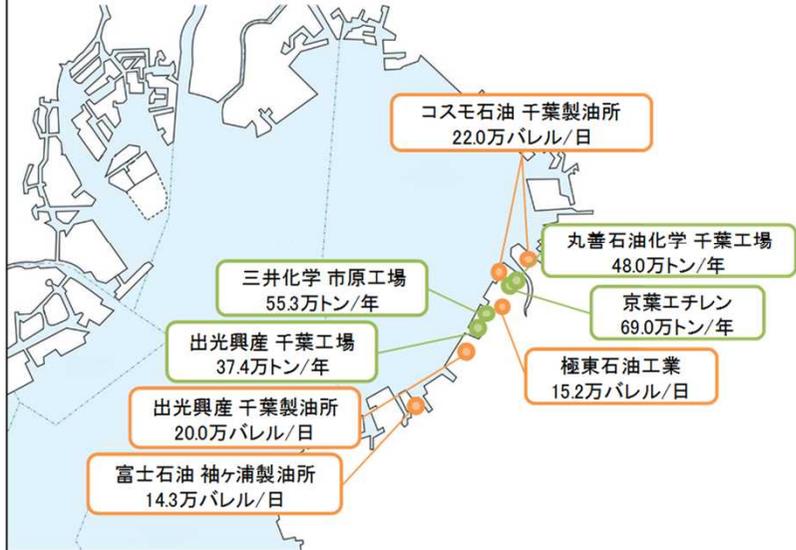
鉄鋼産業の立地状況

火力発電所とLNG貯蔵基地の立地状況

- 原油処理能力: 合計71.5万バレル/日
(全国シェア: 18%、平成28年2月現在)
- エチレン生産能力: 合計209.7万トン/年
(全国シェア: 34%、平成28年7月現在)

- 粗鋼生産量: 合計409.8万トン/年
(全国シェア: 4%、平成24年度実績)
※新日鐵住金 君津製鉄所を除く

- 火力発電所の最大出力: 合計1,346.6万kW
(東京電力火力発電所の31%、平成28年3月現在)
※富津火力発電所を除く
- LNG貯蔵能力: 合計266万kL
(全国シェア: 14%、平成28年3月現在)
※富津火力発電所を除く



資料: 製油所の所在地と原油処理能力(石油連盟HP)、コンビナート所在地及びエチレンプラント生産能力(石油化学工業協会HP)より作成

資料: 経済産業省資料より作成

資料: 東京電力HP、東京ガスHPより作成

(8) 親水空間におけるにぎわい

- ・千葉北部地区の幕張の浜・検見川の浜・いなげの浜は、日本一長い人工海浜(合計延長4,320m)であり、海水浴や花火、音楽イベント、マリンスポーツなどが行われており、賑わいの場となっている。
- ・平成30年3月24日、千葉中央地区において「みなとオアシス千葉みなと」が登録され、賑わいのある親水空間と千葉港としての新たな玄関口としての機能の拡充を図る。

幕張ビーチ花火フェスタ (千葉北部)



千葉みなと旅客船棧橋 (千葉中央)



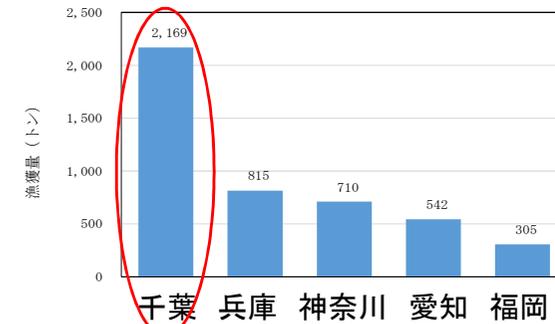
(9) 豊かな自然環境

- ・千葉港には豊かな干潟が存在しています。東京湾奥部に残る三番瀬は、多様な生物の成育場所、水鳥類の中継地、水質浄化機能の発揮などにより、重要な位置を占めている。
- ・千葉港は豊かな漁場としての一面もあり、千葉県はすずき類の漁獲量が全国で最も多く、特に船橋での水揚げは県内屈指の漁獲量を誇る。

三番瀬に群れる水鳥 (葛南中央)



すずき類の漁獲量 (葛南中央)



資料：平成26年度漁業・養殖業生産統計（農林水産省）

(10) 県民の生命を守る防災拠点

・千葉港には耐震強化岸壁が5バース整備されており、被災時には緊急物資や避難者の海上輸送に利用される。



資料:千葉港における東京湾北部地震発生時の震後行動
(千葉港BCP連絡協議会、平成26年6月)

(11) 背後の輸送インフラ

・千葉港周辺には、高速道路、東京湾アクアラインや圏央道などの陸上輸送網、成田国際空港といった輸送インフラが整備されている。

